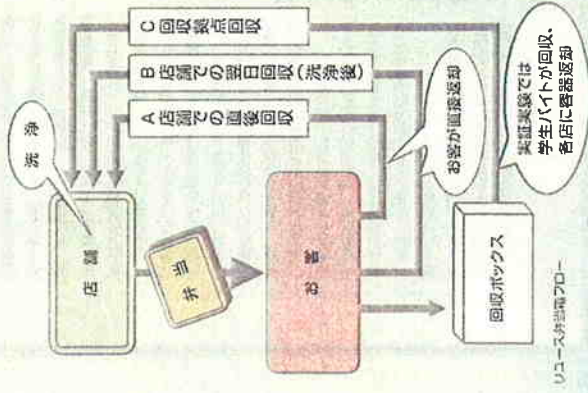


特集 学生の環境保全活動

リユース弁当箱プロジェクト

リユース弁当箱プロジェクトとは…
 大学から排出される一般廃棄物は年間約2,300t、処理費用は約5,500万円です。大学の不燃ごみの多くが、弁当容器と推定されています。この回収後の弁当容器をリユースできるものにしてみようというのがリユース弁当箱プロジェクトです。プロジェクトスタッフが用意した弁当容器を大学周辺商店街の弁当屋さんに配付し、弁当を叠べ替わったらキャンパスに設置した回収箱に入れる。プロジェクトスタッフが弁当容器を回収し、弁当屋さんに配付するというふうになっています。
 実施されたのは2005年ですが、最終報告書が2006年5月にまとまりました。
 参考URL <http://www.reuse-lb.com/>



リユース弁当箱プロジェクトを立ち上げた商学部3年の洪仙希さんにお話を伺いました。

インタビュー(以下、伊): 早稲田大学にはリサイクル弁当容器ボックス(環境サークル「環境ロードリゲス」が開発した紙製の弁当容器で、使用後、紙としてリサイクルできるが普及しているのですが、洪さんが弁当容器のリユースに着目した理由をおきかせください。

洪: ホッকারは弁当箱の中に仕切りができなくて、片ものしかできないというのが理由のひとつです。もうひとつはホッকারは容器のコストが高くて、早稲田大学生協協同組合は協力してくださるのですが、一般のお弁当屋さんには負担になってしまいうのです。

伊: 企画段階、実行段階でたいへんだったことは何でしたか?

洪: 弁当箱を回収して、配るという毎日の運営がたいへんでした。協力してくれるスタッフがもいるのですが、毎日のことで、しかもボランティアとなると予想以上にたいへんでした。

それからお弁当屋さんには弁当箱を洗わせなければならず、それが普段の仕事に加わるわけですからたいへんだったと思います。



PROJECT: REUSE

早稲田大学の環境への取り組み



環境プロジェクトとは…

環境についてさまざまな視点から考え、身近なところから変えていこうとする団体で、部活でも、同好会でも、委員会でもあり早稲田大学高等学院公認の団体です。現在メンバーは18名。その中で積極的に活動している高等学院 東海林祐希さん（環境プロジェクト代表）、越後さん（高等学院環境運動代表）、飯田 真也さん（早稲田大学高等学院自治委員長）に環境プロジェクトの活動についてお話を伺いました。

インタビュー（以下、イ）：環境プロジェクトの活動の概要について教えてください。

東海林：ひとまずは学院祭（高等学院の学園祭）で、「非木材材紙容器」を導入しました。「非木材材紙容器」はサトウキビの殻から作ります。アシ・バガス・竹など木材を使っていない紙を原料にした容器です。使用後に土に埋めると土に還ります。また学院祭でエコステーションを設置し、分別の徹底をしました。二つ目は地域情報。三つ目は高校生環境連盟という組織を設立し、その中心的なメンバーとして活動しています。高校生環境連盟では、環境フォーラムを開催し、日頃の取組みや、研究成果の発表、ディスカッションなどを行っています。環境フォーラムでは「打ち水」「スカベンジ（ごみ拾い）」を行っています。四つ目は練馬区「子どもとおとなの環境会議」への出席など学外の様々な催し物に参加しています。

イ：いろいろなことに取り組んでいますね。「非木材紙容器」の分解のようすはどうですか？

東海林：定期的に振り返って、観察しています。分解のプロセスを論文にしたところ、高等学院のコンクールで銀賞をいただきました。また、地質学会高

校生の場で優秀賞をいただきました。



左から東海林さん、飯田さん、真也さん

高等学院環境委員会の活動



イ：それは高い評価ですね。ただ活動をしただけでなく論文としてまとめることに意義がありますね。その他の活動についてなのですが、地域清掃はどのようなものなのですか？

飯田：学院祭、教員・父母・商店街の方で協力して、駅から学院までを清掃しています。

イ：「子どもとおとなの環境会議」とはどのような会ですか？

東海林：練馬区の学校や企業などが集まり、それぞれの環境活動を報告しました。中には幼稚園の発表もありたりして、幅広い世代、さまざまな立場からの報告を聴くことができ、とても刺激を受けました。

イ：今後やっていきたいことはどのようなことですか？

東海林：高校生環境連盟の参加校が増えて、活動の幅が広がるといいですね。

飯田：環境マネジメントシステムにも取り組んでいます。

東海林：学院のごみ箱の整備や節水活動にも取り組みたいです。

その他の学生の活動

早稲田大学には5万人以上の学生と多くの学生サークルがあります。こうした学生のパワーが環境に向けて発揮されるようになっていこう？

例えば、早稲田大学の学園祭「早稲田祭」では、学園祭によって出るごみの減量とリサイクルに努めています。ホッকারは学生サークルが開発したリサイクルできる紙製の弁当容器です。早稲田大学では当たり前のように使われており、全国に広がりつつあります。また、湘南の海岸清掃をする湘南しりぞ、屋久島エコツアー、打ち水、環境ビジネスなどの多様な企画を展開しています。



打ち水大作戦

弁当容器「ホッকার」